

一人ひとりの理解度を把握し 個を見つめながら「知」の力を伸ばす

2006年の開設以来、2007年38名、2008年50名、そして2009年は65名と、東京大学への合格者が毎年確実に増やしているグローバル。在籍者数の多い大規模塾ではありませんが、2009年度はさらに東大以外でも国立大学や慶應義塾大学の医学部へ31名の合格者を出しました。なぜこれほどの合格実績を上げることができたのか。グローバルの指導方針や授業内容について、代表である中山伸幸先生にお話を伺いました。

正しい理解を積み重ねた「知」の蓄積こそが重要

まずはグローバルの教育目標、指導方針からお聞かせください。
中山 最近では、わかりやすさもてはやされ、物事を浅くとらえる傾向があるように感じます。書店の棚を見ても、物事を簡素化して解説した新書が並んでいます。わかりやすいことや読みやすいことはとても大事なことです。しかし、世の中の仕組みや学問の世界は、じつは奥が深く、難解なものがたくさんあります。物事を表面的にとらえていて、本質を理解することは容易ではありません。



中山伸幸先生

のなかで英語の先生が「東大の英語は簡単だ！むずかしい単語も出なければ、複雑な文法問題もない」と訴えていました。確かに東大の英語問題には語彙的に高度なものや複雑な文法は出てきません。ただ、高度な語彙や複雑な文法が出てこないからといって、だれにでも

解けるわけではありません。易しめの単語を使っている、書かれている事柄の奥が深ければ、内容を読み取るにはそれ相応の知性が必要になります。見掛けや表面的な明解さに惑わされず、物事の本質をとらえて理解する力を身に付けなければ、東大が求めているものに

得たものは土台にはなり得ません。グローバルでは、生徒が大学入試で合格を勝ち取るよう全力を尽くしていますが、大学に合格しさえすればよいとは考えていません。東大に入学した生徒のなかには、五月病になってやる気を失ってしまう人がいまだにいます。東大に合格することだけを目標にしているため、達成したとたんに目標を見失い脱力してしまうのでしよう。グローバルでは、東大に入学した後、まずまず勉強がしたくなる、大学入学後も伸び続ける「知」の力を育てたいと考えています。

思考力、判断力、自分を律する力の根本となる言語力の育成がポイント

世の中の変化に伴い、入試で求められる力も変わってきているのでしょうか。

中山 世の中はかつての競争型の社会から、成熟型の社会へとシフトしてきています。有名大学に入り、一流企業に就職すれば安定した生活が約束された時代には、先生や上司に言われたことをきちんとこなすことが重要だったかもしれませんが、ところが、これからの世の中は、与えられたことをただこなすのではなく、みずから考え判断する力、そして自分を律する力がますます求められてくるでしょう。それは試験

問題の傾向にも表れています。わたしたち教える側は、受験対策としてはもちろんのこと、これからの子どもたちにはどのような力が必要なのか、そこを念頭に置いた授業や指導を行っていくなければなりません。これからの世の中に求められるのは、思考力、判断力、そして自分を律する力だと思えます。そして、その三つの力の根本にあるのが言語力ではないのでしょうか。

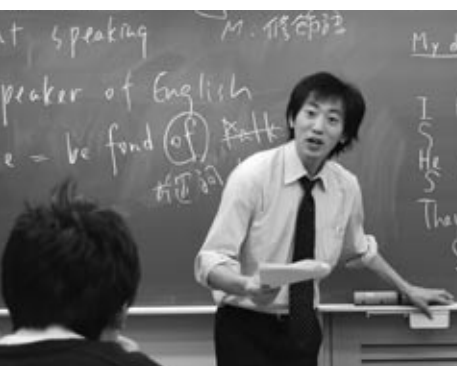
その言語力はいくつかの働きに分けられます。まずは「理解の道具」としての言語です。目の前にいる人の話の内容を理解することはもちろん、古今東西の賢人の言っていることを理解するためには言語力が重要です。次に「思考の道具」としての言語です。自分の考えを論理的に組み立てていく作業にも言語力は欠かすことができませんからね。そして、「コミュニケーション」としての言語。いうまでもなく周りの人とつながることばの力です。そういった意味で、子どもたちの言語力をいかに育成していくかは、わたしたちにとつてとても重要なテーマであり、重い責任があると思っています。

中山 グローバルでは、現在、国語

英語、数学の3教科を教えています。この3教科はいずれも言語力と大いに関連があります。

まず、国語はいうまでもありません。思考の土台、コミュニケーション能力の土台になるものです。ところで、日本人であれば通常の会話に不便はないはずなのに、なにゆえ小学校から高校までの12年間、学校のほかに塾でも勉強するのかといえれば、知的で高度なことはを使うため、また難解な内容でも、それを理解するためにはことばの力を磨いていかなければならないからです。

一方、英語は事実上の世界の共通語です。経済界であろうと科学界であろうと、どのような分野においても、世界と付き合っていくために英語は欠かせません。サッカーの中田英寿さんやF1の佐藤琢磨さんがとても流ちょうに英語を話している姿を見て、世界に羽ばたく未



応えることはむずかしいでしょう。また、正しい理解の積み重ね、論理力の構築、いわば「知」の蓄積は、表面的な学習や知識の暗記、問題の詰め込みによって得られるものではありません。

グローバルにやってくる生徒、とくに高校になってやってくる生徒のなかには、トップクラスの進学校に通っているにもかかわらず、残念ながら基礎的な学力が抜け落ちていく人が数多くいます。高度な理解力を育成するためにはしっかりと土台作りが必要なのですが、中学校でのんびりしてしまい、その土台作りを怠ってしまったのです。

脆弱な地盤に高い建物を建てることはできません。慌てて知識を詰め込んでも、丸暗記のような学習で



来の自分を重ね合わせている子どもたちは多いと思います。

また、これからは日本語に置き換えながら英語を使うのではなく、英語のまま受け入れて英語で発信する力がどんどん必要になるでしょう。さらに、国語の学習と同じように、単に読み書きができるというレベルを超えて、英語で、知的レベルの高いコミュニケーションができる力の養成も大切です。ここでは、教える側がその点をきちんと意識してカリキュラム・教材を作り、授業を進められるかがとても重要になってきます。

数学もまた、理解、思考、コミュニケーションの道具、という意味では言語だといえます。ガリレオは400年前にこのようなことを書いています。「聖書以外に神はもう一冊の書物を著して、それがこの自然界である。そしてこの自然界という書物は数学ということばで書かれている」と。自然現象の研究に限らず、経済のような社会現象を把握するにも数学は大切です。世の中の諸問題を解決するためにも数学的論理思考は欠かせません。

以上のように、思考力や判断力、自分を律する力を手に入れるために、国語、英語、数学という三つの言語の習得が欠かせないとグローバルでは考えています。

確かな理念と的確な指導法を持った指導者の存在が良い塾の第一条件

——そうした点を踏まえて、グノーブルでは具体的にどのような授業が行われているのでしょうか。

中山 子どもたちにとって良い塾とは次の三つの要素を備えた塾です。つまり「良い先生がいること」「良い教材があること」「良い仲間やライバルがいること」の三つ。なかでも、良い先生がいるかどうかは非常に重要なポイントです。では「良い先生」とはどのような先生かといえば、生徒が主体的に学習に取り組みたくなるような環境を用意できる先生ではないでしょうか。ただ課題を与えてそれを消化させるのではなく、生徒がみずから学習に取り組みたくなるような授業を展開できるか、そうなるように生徒を指導できるかが大事です。自然と授業に引き込まれていく先生と、退屈で時間のたつのが遅く感じられる先生のどこが違うのかといえば、生徒自身が前向きになり、自分からやろうという気にさせられるかどうかということだと思います。生徒自身がその時間を生き生きと過ごしているの、ただカリキュラムの消化をしているのでは天と地ほどの開きがあります。学習に困難は付きものですが、本来、新たに知識や考え方を身に付

グノーブルを体験できる! 新中学1年生のための「スタートダッシュ講座」

対象: 中高一貫校の新中学1年生
科目: 英語・数学(各2時間×4日間)
日程: Sターム(英・数) 2/28(日)、3/6(土)、7(日)、14(日)
13:00~15:00、または15:30~17:30
*1科目受講の場合、時間帯を選択できます。
Aターム(英語のみ) 3/15(月)~18(木) 17:00~19:00
Bターム(数学のみ) 3/21(日)~24(水) 15:30~17:30
受講料: 1科目18,480円(税込)
英語・数学ともに定員制(1クラス15名程度)で、ご受講いただくためのテストはありません。

●講座説明会

場所: 新宿本館(予約不要)
2/5(金)、2/7(日)、2/13(土)、2/20(土)、2/28(日)
いずれも10:30~

りを頻繁に行うようにしています。生徒と一対一で向き合い、生徒の名前を呼んで指名し、意見を聞いたり答えを求めたりしながら授業を進めていきます。一人ひとりの生徒の考えがどこまで深まっているか、どこまで理解が進んでいるか、どこまで知識が定着しているかを確認したいからです。コミュニケーションを深めることによって、生徒が気軽に質問ができる環境を作ることができます。

けることは、わくわくすることのほがずです。学習することの喜び、わくわくする気持ちをいかに実感させられるか。たとえば単語一つとっても、ただ暗記するだけではおもしろいはずがありません。単語の成立の背景や語源を知ることによって新たな興味が生まれ、意味の真の理解活用できる力へとつながるのです。グノーブルの卒業生は口をそろえて「グノーブルは先生と生徒の距離が近い」と言います。それは、生徒自身がおもしろいと感じて主体的に参加し、先生と一体となって授業をつくっているからかもしれません。

一人ひとりに合った指導・教材を考える

グノーブルではどのような教材をお使いですか。また、個別指導のようにていねいな添削指導がなされていると聞きました。

中山 教材は、生徒たちの学力の向上や意欲に影響する重要なツールなので、黒板に書く例題やテキスト、プリント類を含め、すべてわたしたちが作成します。

教材については二つのことを念頭に開発されていなければなりません。一つは、以前と比べて大きく様変わりしている受験問題にきちんと対応しているかどうか。もう一つは、その教材が目前にいる生徒た

最近、ミラーニューロンという前頭葉にある神経細胞に関する本が出版されました。他人の行動を見ているうちに、あたかも自分が同じ動作をしているかのように反応する神経細胞のことです。グノーブルの授業も、「周りの生徒のレベルの高さが刺激になり、やる気が出てきた」「ほかの生徒の答えや考えが参考になった」という生徒たちの声にあるように、一見すると一対一のやり取りでも、じつは「一対多」の効果につながっていることがこの本の内容によって裏付けられたように思いました。良き仲間やライバルに囲まれ、双方向性の授業を行うことにより、生徒たちの学習意欲は確実に高まります。

合格のその先を見据え 夢をかなえるための力を育む

高い合格実績から、さぞや厳しい授業が行われているのかと想像する人も多いと思いますが、ホームページで卒業生の声を読むと、楽しく授業を受けていたようすをうかがうことができます。

中山 それは、生徒の皆さんが主体性を持って学習に取り組んでいるからです。わたしたちは、そのために講師、教材、授業内容といった環境をいかに整えられるかをつねに考



ちに合っているかどうかです。いくらわたしたちが一生懸命に考えた教材であっても、目の前にいる生徒たちが必要としている内容でなければ意味がありません。生徒たちは毎年変わります。前の年に生徒の学力アップにとっても役立つ教材でも、いまの生徒たちに合っていないとは限りません。わたしたちは目の前の生徒たちを見つめ、彼らに適した教材であるかどうかを考え、工夫や改良を加えながら教材を作成しています。

グノーブルでは、一人ひとりに焦点を当て、一人ひとりに合った指導を行っています。生徒はみんな理解の度合いや問題へのアプローチがそれぞれ違います。大きな教室でカリキュラムどおりに進めるような授業ではなく、可能な限り個人個人に合った指導を心掛けています。

先にも述べましたが、グノーブルでは試験に合格さえすればよいとは考えていません。その先にある、生徒たちが自分の目標や夢に向かって突き進むための「一知」の力を育てたいと考えています。昨今の試験問題の変化も、まさにそのような力を問う内容になってきているように感じます。

先日、ある卒業生から次のようなメールが届きました。「このたび、日米学生会議に参加することになりました。正直、東大に受かったよりもうれしいです。試験は英語でのディスカッションや面接、ペーパーテストがありました。帰国子女でもないが数百人の受験者から選ばれたのは、グノーブルで学んで飛躍的に英語力が伸びたからだと思えます。ありがとうございます」

この生徒だけでなく、ほかにも多くの卒業生たちが近況を知らせる連絡をくれ、その声は本当に励みになります。夢に向かって歩みを進める生徒たちの力になれば、こんなうれしいことはありません。

生徒たちが力を付けるための環境づくりに徹底してこだわり、一人ひとりに目を向ける指導が高い合格実績につながっているということです。本日はありがとうございます。

添削指導もそのようなわたしたちの思いの表れです。模範解答を見て、ただ正誤のみの確認で終わっては、本当の理解にはつながっていきません。わたしたちは、日本語であっても英語であっても、生徒たちの書く文章一つひとつに目を通し添削しています。数学の答案も、その表現の妥当性をきちんと判断してあげること、生徒たちの思考力も表現力も成長します。こうしたことを私たちは毎回毎回行い、そして、タイムリーに、できるだけ早く返却しています。

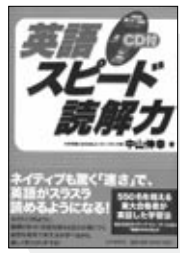
正直なところ、添削はかなり労力のいる作業です。明け方まで添削に追われることも決して珍しくありません。たいへんですが、生徒の理解の進度を把握し、的確に表現できるよう導くには、添削指導は欠かせることができません。

インストラクティブな授業が相乗効果を生み出す

生徒たちの学習意欲を高めるために、授業で工夫を凝らしていることはありますか。

中山 一人ひとりを見つめる授業という話にもつながるかと思いますが、グノーブルでは講師が一方的に話すのではなく、生徒に質問したり、生徒に解答を聞いたりするなど、授業内で先生と生徒のやり取

グノーブル独自のメソッドが1冊の本に!!



- ★一読すれば英文のとらえ方が変わる。
- ★じっくり読めば、高速かつ正確に英語を処理する実力が付く。
- ★大学受験のみならず、TOEIC対策にも最適。

グノーブル新宿本館受付でも絶賛販売中!
■ 大学受験 グノーブル代表 中山伸幸=著
■ PHP研究所=刊 ■ 定価=1,575円

〈新宿本館、1号館、2号館〉



プロフィール
GNOBLE ~知の力を活かせる人に~
所在地
〈新宿本館〉〒151-0053 渋谷区代々木2-8-3新宿GSビル1F
TEL: 03-5371-5487 FAX: 03-5371-5488
受付時間: 月~金曜日 15:30~21:00
土曜日 14:00~21:00 / 日曜日休み
http://www.gnable.co.jp/
●交通アクセス
JR「新宿」駅サザンテラス口 徒歩1分(南口 徒歩2分)
京王新線・都営新宿線・都営大江戸線 出口2 徒歩0分
JR「代々木」駅北口 徒歩5分